

大津放水路建設事業(1 期)

受賞機関 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所

事業概要

滋賀県大津市の南部には、中小 8 河川が流下しており、これらの河川を横断するように高速道、国道、新幹線、鉄道が走っている。学校、病院、事業所等も集中しており、人口・交通・資産等の面からも極めて重要な地域であるが、8 河川の流下能力が小さく、これまで、たびたび浸水被害が発生し、早急な治水対策が求められてきた。

大津放水路はこれらの洪水被害を軽減し、安心して暮らせる地域作りのために計画された。昭和47年琵琶湖総合開発計画の中で三田川及び盛越川が大津放水路に位置付けられ、滋賀県により基礎調査が行われた後、8 河川を対象とする計画となり、平成4年に直轄化された。全長4.7kmの放水路計画のうち、

期区間として瀬田川から盛越川までの約2.4kmが平成7年に着工され、約10年に渡る工事を経て、平成17年6月12日に 期区間通水式が実施された。



図 - 1 大津市街地と放水路ルート

施設の概要 (期区間)

- 延 長 : 2,443m
(開削水路249m、NATM411m、シールド1,783m)
- 計画対象降雨 : 108mm/hr
- トンネル径 : 最大10.8m
- 分 水 施 設 : 三田川、狐川、盛越川合流地点
- 分水施設減勢立坑深 : 19~40m (渦流式)
- 事 業 費 : 641億円

特徴

開削水路部は自然公園内にある風致地区で、貴重な植物もあることから、観光協会や自治連合会、学識経験者等からなる環境整備懇談会で周辺地域の景観・環境に配慮した計画を検討した。山腹修景には、

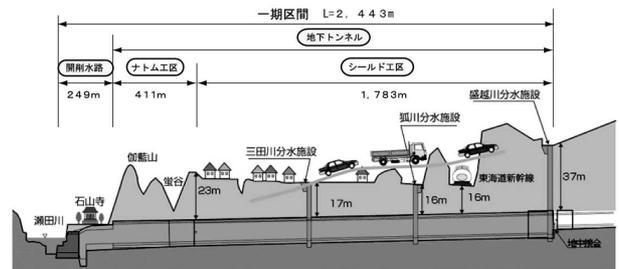


図 - 2 大津放水路 (期区間) 縦断面図



図 - 3 狐川分水施設

間伐材を使用したグリーンベンチ工法を採用し、生態系に配慮して在来種を中心に植樹した。開削水路の護岸部は、コンクリート擁壁の表面に御影石を施し、石山寺地区の風致に合わせたデザインとした。開削水路部に架けた月見橋のデザインも、周囲の歴史的景観に配慮したものとした。

対象河川の洪水を放水路に引き込む分水施設には、対象河川の環境に配慮して、平常時はこれまで通り、現在の川に水が流れるようにオリフィス構造を採用した。減勢立坑は渦流方式とし、洪水落下時の振動・騒音を、極力低減する構造になっている。

おわりに

期区間の通水により、下流域の慢性的な浸水被害が大幅に軽減され、住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献するものと期待されている。

賛助会員 (株)大林組、鹿島建設(株)、川田建設(株)、(株)建設技術研究所、(財)建設物価調査会、(株)鴻池組、清水建設(株)、セントラルコンサルタント(株)、玉野総合コンサルタント(株)、(株)長大、パシフィックコンサルタンツ(株)、福井鐵工(株)、三井共同建設コンサルタント(株)